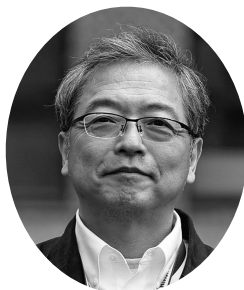


命の不思議に 挑むまち・岡崎から

自然科学研究機構
生命創成探究センター

センター長 根本 知己 氏



教育随想



令和7年10月1日

10月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
自然科学研究機構 生命創成探究センター センター長 根本 知己 氏	
この人に聞く……………	2
ドローン操縦士 野澤 成裕 氏	
羅針盤……………	2
矢作北中学校 校長 荒河 昌吾	
ふれあい……………	3
北野小学校 教諭 畔柳 圭祐	
特集……………	4
校章の由来を知っている？	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
大人数がいたころの学校 (昭和2年)	
この本を……………	8

岡崎は、自然科学研究の伝統を受け継ぐ歴史ある地です。その中で二〇一八年に発足した、「生命創成探究センター」は、「命とは何か」という根源的な問いに挑む、新しい研究拠点です。物理・化学・生物など分野の垣根を越え、国内外から集まった研究者が協力して、「生命と物質の境目はどこか」「極限環境に生きる仕組み」「人工的に生命をつくれるのか」といったテーマに取り組んでいます。

私は岡崎国立共同研究機構・生理学研究所において十年間、研究に従事し、その後、北海道大学の教授として長く北の地に身を置きました。五年前に再び岡崎へ戻り、岡崎城の桜花や夏の花火に再会できたとき、改めてこの地への愛着を強くいたしました。ここで再び、研究の歩みを進められることを大きな喜びとして

います。科学という言葉は難しく響くかもしれませんが。しかし出発点は「なぜ？」「どうして？」という素朴な疑問にすぎません。私自身も、脳や神経の仕組みに魅了され、顕微鏡で生命を「見る」ことから探究の道を歩んできました。そして、研究とは一人で悩む営みではなく、仲間と力を合わせて未知を切り拓く共同作業です。そして、自然科学の学びは、性別に関わらず、誰にでも開かれています。次代を担う中高生、特に女子生徒が自らの関心を伸ばして、科学に親しむ環境を整えることは、私たち大人の責務とも言えるでしょう。岡崎からの挑戦は、未来の医療や環境、社会の在り方へと広がっていきます。

子供たちの「知りたい」という気持ちこそが、新しい発見の原動力です。この地の伝統に支えられながら、未来を担う若い世代が科学の扉を開いていくことを、心から願っております。そして研究の営みが、地域の教育とも結びつき、子供たちの学びや成長を支える一助となることを願っています。

(ねもと ともみ)





誰一人取り残さない社会を目指して

ドローン操縦士

野澤 成裕 氏

長年勤めた岡崎市役所を退職し、令和三年にドローン事業に特化した会社を創業した。社名には、ドローンの四枚の羽根を、幸運の四つ葉に重ね、多くの人々に幸せを運べるようにとの願いを込めたという。ドローンを通して、どのように社会に貢献しようとしているのか。野澤さんに話を聞いた。

なぜドローンに特化した会社を設立したのですかー

市役所時代、知り合いの電気屋さんから誘われた縁で、ドローンの資格を取る機会を得ました。その後、農家さんからの依頼で、ドローンを活用した薬剤散布を行ったところ、大変感謝されました。ドローンならば炎天下でも少ない負担で散布できるからです。他にも教育や点検など、

ドローンに関する依頼が増えたことで、ドローン事業への可能性を感じるようになりました。定年まで公務員を務めるつもりでしたが、人生は一度きり。父の死をきっかけに、やらずの後悔より、やって後悔した方がよいとの気持ち有一段と強まり、ドローンでの起業を決意しました。

印象的な仕事はありましたかー

形埜小学校でドローン講座を行ったときのことです。私の母親が市内の特別支援学級の教員だったこともあり、特別支援学級の子供たちに関わってみたいと考えていました。まず、特別支援学級の子供たちに二時間かけて、操縦とプログラミングを教えました。次に、その子供たちが教師役となって、通常の学級で手本を見せながら使い方を教える場を設定しました。生き生きと活動する子供たちを見た校長先生から「特別支援学級の子供たちが笑顔で楽しそうに教える姿が見られ、感動しています。機会を与えてくださり、ありがとうございます。」と、感謝の言葉をいただきました。

年齢や所属に関係なく、学んだことを一生懸命他者に伝える子供たちから、教育の意義とドローンの更なる可能性を感じることができました。

仕事をやる上で大切にしていることは何かありますかー

ドローンの普及を目指し、次世代

の人材を育成することです。ドローンは、防災や建築など様々な分野で作業の簡素化、省力化につながるため、今後ますます需要が高まると考えられます。そこで後進の育成のために、仕事を通して教育の連鎖が起きよう工夫しています。私の経験や知識、思いを伝えるだけでなく、伝えた相手がまた別の誰かに知識や技術を伝えてくれば、私は仕事を通して社会に貢献していると実感できます。形埜小学校での経験のように、教育の連鎖をいかに生み出すか、私が仕事をする上で大切にしている考えの一つです。

今後の展望を聞かせてくださいー

私は額田に住んでいるので特に感じるのですが、過疎化、少子化が進む現代において、一人一人の存在がとても大切です。人がいなくなると、地域は大きく衰退してしまいます。もし、ドローンに関する知識や技術を身に付けることができれば、身体的な特性に関わらず、誰でも社会で活躍できるはずです。ドローンを通して、誰一人取り残されることなく社会の実現に貢献できればと考えています。



氏名

のざわ なりひろ

生年月日

昭和五十二年

四月十三日

住所

岡崎市桜形町



授業観の転換

矢作北中学校

校長 荒河 昌吾

「教師は、授業が命だ」と、ある先輩教師から強く言われた。まだ私が三十代前半の頃である。

その頃の私は、部活動の上位大会の進出を目指し、土日もなく練習に明け暮れ、生徒指導では、毎日、夜遅くまで家庭訪問や問題行動の対応に追われていた。また、文化祭の合唱コンクールでは、クラス全員で自転車に乗り、矢作川の河口まで行き練習をするなど、行事や部活動、生徒指導ばかりに力を入れていた。そんな私を見かねて先輩教師は、助言をしてくれたのだ。

当時、私にとって学校の教育活動の中で授業が最も大切であるという思いはなかった。なぜか。それは、私には行事や部活動で見られる子供の輝きを授業で引き出す授業力がなかったからである。それゆえ、授業に対する意識も薄かった。日々の授



些細な一言で

北野小学校

教諭 畔柳 圭祐

手先が器用で工作に没頭するAさんは、一人で折り紙をしていることが多い。自ら進んで友達と関わることを苦手としていることも、一人でいる理由の一つかもしれない。

進級した四月当初、頑張ろうという気持ちで学習に取り組んでいたAさんだったが、次第に机に伏したり、学習に関係ない行動をしたりするようになった。そのようなAさんに、周りの児童が「意見を聞いても、まだ考えている途中と言っても、答えてくれない」と困っている様子も見られるようになった。児童たちにはAさんとの関わりをもち続けてほしいと思い、Aさんが話すまで待っていてほしいと伝えていた。

ある日、児童の一人が声を出した。「先生、Aさんがノートをちぎって折り紙にしています。」

「ノートをちぎったことはよくないけれど、小さい折り鶴ですごいね。次は折り紙で作ってみて。」

私が注意しなかったことに、周りの児童は驚くも、折り鶴の小ささに、「本当だ、すごい。」

と、Aさんの行動に興味をもち始めた。次の休み時間、Aさんの周りに友達が集まり、和気あいあいと折り紙を始めた。皆に囲まれて、Aさんは少しだけ誇らしそうな顔をした。

折り紙の助言をきっかけに、Aさんは休み時間に近づいてきて、雑談をするようになった。

「夏休み、旅行に行くんだよ。」

「それは楽しみだね。」

ゲームの話や家族のことなど、たわいもないことを明るい表情で話すことが増えていった。また、

「先生、作ったからあげるね。」

少し恥ずかしそうに私に折り紙の作品を持ってくるようになった。最初は一人で作った作品だけだったが、友達と協力しながら作ったくす玉のような作品も、教師の机に飾られるようになった。

授業中、学習と関係ないことをしてしまうことに對し、Aさんは、「やってはいけないとわかっていてけれど、勉強がわからないからやってしまう。」

と話した。今までAさんへの接し方に困っていた児童に、

「Aさんもやらなければいけないと

思っているけれど、自分からわからないとは言えないみたい。みんなが教えてくれることは嫌ではないから、どんどん話しかけるといいよ。」

「Aさんに、上手に話せなくていいから、ノートに書いてあることを見せ、と言ってみたら。」

と話した。周りの児童は、気にせず話しかけてもいいんだと、解き方を教えたり、「間違っているよ」とい

「頑張ろうよ」と声かけしたりするようにになった。周りの児童の言葉からAさんの中に安心感が生まれ、学習に取り組むようになっていった。

Aさんは、大きな声で褒められることにも抵抗感がある。机間指導をしながら、さりげなく「できたね」と声をかけている。Aさんは、表情が柔らかくなり、明るくなってきた。伏し目がちだった姿から、顔を上げ、様々な活動において前向きに取り組むようになっていった。

思っているけれど、自分からわからないとは言えないみたい。みんなが教えてくれることは嫌ではないから、どんどん話しかけるといいよ。」



業では、主体的な学びを推進する「子供の問い」を大切にすることなく、常に教師主体で子供に何を教えようか、何を覚えさせようかとばかり考えていた。

三十代半ばとなった私は、研究員として、ある実践に携わることに

なった。

社会科『少子高齢化社会の福祉を考える』の実践で、生徒Aは、資料から少子高齢化が進む現状に関心をもった。その気づきは教師の支援によって、自分事として、祖父をどのように介護していけばよいかという単元を貫く問いに高まっていた。

教師は、その子ならではの問いを、その後の追究の核として大切に、子供の思いをくんでいく。さらに生徒Aは授業での対話を通して、他の考えと自己の問いをつなぎ、自分の生き方を考えるまで学びを深めていった。

そんな子供が輝く授業に出会い、私の授業観は、大きく変わった。

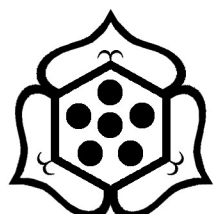
一人一人違うことを前提に子供の実態や思いに目を向け、子供自身が学びを深めていくように、いかに伴走し、支援していくか。教師主導の一斉授業から脱却し、子供主体の授業をいかに実践するか。

私たちの求める学び方改革は、まず教師の授業観の転換から始まる。

校章の由来を知っている？



▲校門の見えやすい位置に設置されている校章（広幡小）

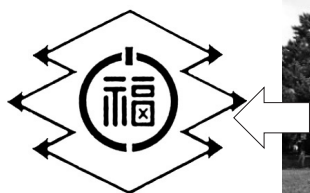


【梅園小】

葵の三つ葉と梅の花を
もとにデザインされた。



▲うめぞの梅園（梅園小）



【福岡小】



▲土呂陣屋の松（福岡小）



【山中小】



▲鳩ヶ窟（山中八幡宮）

校章の由来は様々である。文字をデザイン化したものや、生き物、自然、道具をモチーフにしたものなど、その学校にゆかりの深いものが多くある。『校章と自然 愛知県における校章の研究』（杉浦正巳編著）では、「校長をはじめ教職員や保護者の方々がその抱負や悲願の実現を図るために地域の環境、とりわけ自然を重視して校章づくりに意欲を燃やし、その中に願いをこめ、夢と希望を託しておられるのだと思う」と記されている。市内小中学校の中で、今回は植物をモチーフにした小学校の校章について取り上げる。

また、岡崎にゆかりの深い徳川家の家紋である葵を使っている学校もいくつかある。山中小学校は、徳川家の家紋である葵を土台にし、鳩と弓矢をデザインしている。徳川家康公が一向一揆で、一揆勢に追われていたとき、山中八幡宮社前の鳩ヶ窟に身を隠した際、白鳩により一命をとりとめたという史実をもとにして作成されている。

近年、多くの小学校が創立百五十周年を迎え、歴史や伝統を振り返りながら様々な行事を行った。校章の意味を読み解くことは、その学校の歴史や理念を知るきっかけとなる。子供たちや学校がどのように成長、発展していくか、刻まれた象徴をもとに、改めて考えてみてはいかがだろうか。



●令和七年度研究発表会

◆岡崎市立城南小学校

十月十五日(水)

自ら学びに向かい、他者との関わりの中で、新たな価値を創造できる子の育成
― 学び方の選択と考えの再構築を通して ―

城南小学校では、子供が自分の考えをもち、仲間と聴き合いながら学びを深める授業を進めてきた。全ての子供が「自分の考えをもつ」ことから学びを始められるよう、複数の学び方を提示し、自分に合った方法を選べるよう支援した。また、互いの考えを尊重しながら聴き合うことで、考えの再構築が促され、対話しやすい環境づくりにも取り組んだ。振り返りでは成長を可視化し、次の学びへの意欲につなげてきた。

当日は、研究発表、全学級

の授業公開、授業を語る会を行う。

※市委嘱 (R5~7)

◆岡崎市立甲山中学校

十月二十二日(水)

子供たちのウェルビーイング実現にむけた教育の推進
― 子供の発達を支える生徒指導 ―

甲山中学校では、「子供たちのウェルビーイングの実現にむけた教育の推進」を研究主題とし、研究を進めてきた。全教育活動において発達支持的生徒指導を大切にした教師支援により、自己有用感と心理的安全性を高め、自己実現に向かつて行動する生徒を育もうと考えた。具体的には「授業づくり」「絆づくり」「居場所づくり」を三つの柱にし、支援のあり方を考え、実践した。授業では、「生徒指導の実践上の四つの視点」「発達支持的生徒指導」を学習指導案の中に位置付けるとともに、自ら判断・決定して適切に表現する活動(アウトプット)を意図して行っていく。

当日は、研究発表、全教科の授業公開、授業を語る会を行う。

※市委嘱 (R5~7)

◆岡崎市立大樹寺小学校

十月二十九日(水)

「みんなが学びの主人公」となる全員参加型授業の創造
― 一人一人の発想・感性が生きる学び合いを通して ―

大樹寺小学校では、チーム学習を前提とし、全ての子供にとつて学ぶことが楽しいと感じられる子供中心の授業を目指している。具体的には、アイコンタクトや肯定的な受容によって承認感や安心感を醸成し、「あなたはこう思うか?」という子供視点の発問によって、子供が自分ならではの発想や感性を生かし、自らの力で学びを深めるような授業づくりに取り組んできた。

当日は、研究発表、全学級の授業公開、授業を語る会を行う。

※市委嘱 (R5~7)

●表彰

◆第52回全日本中学校陸上競技選手権大会

○男子の部

・3000m
2位 南中 尾田 祥太

・走高跳
4位 竜海中 田井中大和

・走幅跳
4位 常磐中 森本 獅生

・3000m

出場 福岡中 坂井 俊太
・4×100mリレー
出場 岩津中

清川 龍昇・渡邊 拓実
吉見 温人・高橋 遼

・400m
出場 岩津中 渡邊 拓実

・800m
出場 六ツ美中 村松 支葵

・1500m
出場 六ツ美中 柵木 快心

○女子の部
・100m
7位 新香山中 原 芽咲

・四種競技
出場 竜海中 川瀬 彩葉

・100mH
出場 城北中 横井 心菜

・800m
出場 竜南中 佐野伊桜里

◆第65回全日本中学校水泳競技大会
○男子の部
・高飛込
4位 六ツ美中 二階堂 律

・3m飛板飛込
6位 六ツ美中 二階堂 律

◆第55回全国中学校剣道大会
○男子個人の部
ベスト8 矢作中 重富 晴陽

◆文部科学大臣杯第49回全日本中学ボウリング選手権大会
○女子の部

準優勝 葵中 浅井 月音

◆第47回東海中学校総合体育大会バレーボール大会
○男子の部
出場 矢作中

矢作北中

◆第47回東海中学校総合体育大会ソフトテニス大会
○男子団体の部
出場 河合中

○女子団体の部
出場 矢作中

◆第47回東海中学校総合体育大会卓球大会
○女子団体の部
出場 北中

◆第47回東海中学校総合体育大会剣道大会
○女子団体の部
出場 矢作中

○男子個人の部
ベスト8 矢作中 重富 晴陽

◆第47回東海中学校総合体育大会陸上競技大会
○男子の部
・3年1500m
2位 南中 尾田 祥太

・走高跳
2位 竜海中 田井中大和

・3000m
2位 福岡中 坂井 俊太

・800m
2位 六ツ美中 村松 支葵

○女子の部
・走高跳
2位 竜海中 田井中大和

・3000m
2位 福岡中 坂井 俊太

・800m
2位 六ツ美中 村松 支葵

○男子の部
・走高跳
2位 竜海中 田井中大和

・3000m
2位 福岡中 坂井 俊太

・800m
2位 六ツ美中 村松 支葵

・2年1500m 2位 六美北 柵木 快心 4×100mリレー 5位 岩津中 清川 龍昇・高橋 遼 吉見 温人・立田 輝	・400m 7位 岩津中 渡邊 拓実 砲丸投 出場 南中 清水 陸功 走幅跳 出場 常磐中 森本 獅生	・女子の部 ・3年100m 2位 新香山中 原 芽咲 円盤投 4位 翔南中 鈴木 万結 1500m 5位 竜南中 佐野伊桜里 100mH 8位 竜海中 永山 ねね 走高跳 出場 甲山中 森田 あお 走幅跳 出場 甲山中 近藤 彩 800m 出場 矢作北中 矢野 萌花	・男子の部 ・400m個人メドレー 2位 東海中 中山 新太 100mバタフライ 5位 城北中 本多 雄成	◆第47回東海中学校総合体育大会水泳競技大会 放送コンテスト テレビ番組部門 出場 竜海中 パソコン部 ラジオ番組部門 出場 竜海中 パソコン部	◆第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト テレビ番組部門 出場 竜海中 パソコン部 ラジオ番組部門 出場 竜海中 パソコン部	◆第46回愛知県ジュニアオリピック陸上競技大会 中学生男子の部 砲丸投 3位 南中 清水 陸功 走高跳 2位 竜海中 田井中大和 3000m 3位 新香山中 城殿 大和	◆日本道路協会表彰 道路功労者の部 他の模範 奥殿小	◆第80回東海吹奏楽コンクール 中学生Bの部 金賞・朝日新聞社賞 美川中 中学校Aの部 銅賞 矢作中 2025年度愛知県吹奏楽コンクール愛知県大会 B編成の部 金賞・県教育委員会賞・朝日新聞社賞 美川中 A編成の部 金賞 矢作中 2025年度愛知県小学生バンドフェスティバル 金賞・県教育委員会賞・朝日新聞社賞 竜美丘小 第92回NHK全国学校音楽コンクール愛知県コンクール 小学校の部 金賞 梅園小 金賞 三島小 令和7年度愛知県教育文化奨励賞 教育委員会表彰 三島小 合唱部	◆第47回東海中学校総合体育大会柔道大会 男子55kg以下級 出場 曙Weste 岸本 武士 男子60kg以下級 出場 曙Weste 岩月 颯真 ナビ個別カップAIFA U-15サッカー選手権大会2025 3位 竜海中	◆女子の部 ・800m自由形 5位 六美北 種池 祐月 400m個人メドレー 8位 甲山中 鈴木 彩心 平泳ぎ100m 出場 翔南中 坂野 愛莉	◆女子の部 ・2年1500m 2位 六美北 柵木 快心 4×100mリレー 5位 岩津中 清川 龍昇・高橋 遼 吉見 温人・立田 輝
---	--	---	---	---	---	---	-------------------------------------	--	---	--	--



第63回 小学校水泳大会 大会結果

【北ブロック】会場：市内小学校プール

種 目	男 子			女 子		
	氏 名	学 校	記 録	氏 名	学 校	記 録
5年 50m自	木俣 亮佑	細 川	35"6	大平 彩葉	広 幡	33"1
6年 50m自	杉本 晴亮	矢作北	31"7	羽戸 陽咲	矢作北	35"7
6年 100m自	吉見 龍羽	矢作南	1'07"8	森本こはる	北 野	1'10"5
6年 100m平	吉岡 鷹助	矢作南	1'30"1	柳楽 柚羽	矢作西	新1'22"0
6年 50m背	合田 朔太	矢作南	40"7	河津 祐希	北 野	35"8
6年 25mバタ	後藤 陽貴	矢作南	16"6	大西由里子	細 川	16"8
6年 50m平	辻本 理矩	矢作東	39"0	中村 美結	矢作北	53"5
200m リレー	後藤・太田 吉見・吉岡	矢作南	2'14"2	服部・島田 山口・齊藤	矢作東	2'24"9

【南ブロック】会場：市内小学校プール

種 目	男 子			女 子		
	氏 名	学 校	記 録	氏 名	学 校	記 録
5年 50m自	横山倫汰朗	上 地	31"4	星川 愛理	岡 崎	33"4
6年 50m自	大原 真冬	上 地	34"6	高橋 奈生	三 島	37"0
6年 100m自	佐野 瑛亮	三 島	1'22"2	高野 真帆	三 島	1'11"6
6年 100m平	畑野 諒吉	六 西	1'33"6	石田麻日向	六 中	1'36"9
6年 50m背	松井 峻馬	小豆坂	36"5	竹内菜々花	岡 崎	38"9
6年25mバタ	小林 優碧	上 地	新14"7	松本 佳純	六 中	17"4
6年 50m平	栗田 湊	羽根小	50"0	服部 百夏	上 地	49"6
200m リレー	大原・鈴木 横山・小林	上 地	2'19"3	竹内・中川 壁谷・星川	岡 崎	2'32"3

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

相談窓口	電話番号	相談受付日時	あいちこころのサポート相談(SNS)
岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30	LINE 友だち追加・ID検索 @aichi_soudan 
あいちこころのサポート相談(SNS)	右QRコード	月曜日～土曜日 20:00～24:00 日曜日 20:00～翌月曜日 8:00	
愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00	
あいちこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休 9:00～20:30	
愛知いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間	

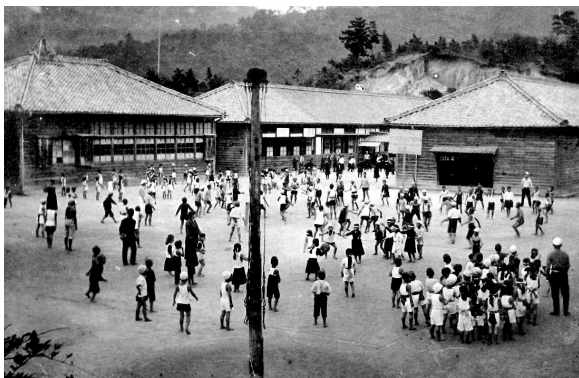
大人数がいたころの学校 (昭和2年)

写真提供：形埜小学校

写真は、昭和初期に撮影された、形埜小学校の前身、形埜村立形埜尋常高等小学校の様子である。木造平屋建ての校舎の前、運動場で大人数が運動している。

昭和二年、児童数は二二三名であった。学校では、蚕業講話や農業実習の講師として村民を招いていた。その後、最大三四〇名まで達した児童数は、現在、四十二名にまで減少した。ササユリの保護活動や森林観察、間伐体験など、地域の資源を生かして、地域の方から学びを深めている。

岡崎市内の多くの小学校で、年々児童数が減少している。しかし、地域と学校が一体となり、各学校の特色のある教育を行うことが地域を盛り上げることにつながる。



本を読めなく
なった
人のための
読書論
若松英輔

*本を読めなくなった人のための読書論 若松 英輔
亜紀書房 ￥1,200

心に残った一文

読めない時期にも意味がある。

図書館に足を運ぶわずかな時間が、慌ただしい日々の中での静かな喜びとなっている。本棚の間を歩き、まだ読んでいない本の気配に耳を澄ます。本書に出会い、自身のささやかな楽しみや喜びが、著者の語る「読むこと」の本質に、少しばかり通じているようで嬉しくなった。

著者は、読書を単なる知識の摂取ではなく、沈黙と対話する営みとして捉えている。読めない時期もまた、読むことの一部であるという視点は、時間に追われ、時に本に向き合う気持ちになれないことへの焦りを、優しくほどいてくれる。

*自己調整学習 木村 明憲
明治図書出版 ￥1,960

*新しい、美しい日本の図書館 立野井一恵
エクスナレッジ ￥1,800

*デザインを、経営のそばに 八木 彩
かんき出版 ￥1,800

竜谷小学校 手島 露子

「得意分野を生かし、地域に役立つ仕事がしたい。」笑顔で語る野澤さん。

ドローンの秘めたる可能性を引き出し、全ての人が社会参画できる世の中にすることで、誰一人取り残さない社会の実現を目標としている。私たち教員も、誰一人取り残さない教育を目指して教材研究、授業実践に励みたい。

どホッ

神無月



▲地域ブロック部活動での大会(弓道)

月日を重ね、築いてきた学校の歴史。校章はその歴史とともに歩んできた紛れもない伝統の一つである。単なる学校を表すマークではない。校章に込められた願いや思いを改めて考える。そこには、学校や地域が大切にすべき姿がある。願いや思い、そして伝統を大切にしつつ、新たな歴史を積み重ねていく。